



【取組7-2】なつやすみこどもにほんごきょうしつ

運営受託：(公財)横浜市国際交流協会



日時・場所	日時：【コース1】2025年7月29日(火)・30日(水)・31日(木) 【コース2】2025年8月20日(水)・21日(木)・22日(金) 10:00~12:00 場所：なか区民活動センター・なか国際交流ラウンジ
対象	地域(中区近郊)の外国につながる児童のうち、 来日間もなく日本語を学び始めた小学生
参加人数	【コース1】参加人数15人(のべ38人) 【コース2】参加人数11人(のべ29人)
講師 サポーター	日本語支援拠点施設「ひまわり」より講師4名(各コース2名) 大学生13人、地域日本語教室等の日本語ボランティア5人 計18人 ※大学連携については、【取組4-6】大学のゼミやボランティアセンターとの連携 の事業報告を参照ください。

【事業概要・趣旨】

地域の多文化共生の拠点である国際交流ラウンジ(*)と協働し、小学生から高校生(年齢相当)の日本語学習機会の拡充に向け、教育委員会と連携し、地域のニーズを踏まえた上で、日本語教室を開催する。

地域に定期的実施されている小学生対象の日本語教室・学習支援教室がなく、実態調査等でも子どもの日本語教室実施に関するニーズが挙げられていたことを受けて、なか国際交流ラウンジとの協働で、地域の外国につながる小学生を対象とした教室を実施することとした。



尚、実施においては、区役所、教育委員会、日本語支援拠点施設等、外国につながる子どもやその支援に関わる機関・団体と連携し、地域のより多くの外国につながる小学生へ本教室を周知する。

*国際交流ラウンジ：市内在住の外国人のための生活情報提供、多言語相談、日本語教室の開催、通訳ボランティアの派遣、日本人との交流活動などを行う多文化共生の拠点。市内13区に設置されている。

【目的・目標】

- ・来日間もなく日本語を学び始めた子どもに、基礎的な日本語を学ぶ機会、また参加者同士が交流できる機会を提供する。
- ・近隣の学習支援教室や、なか国際交流ラウンジのイベント等の情報提供をし、地域と継続的に関わるきっかけとする。
- ・保護者にも国際交流ラウンジについて知ってもらうことで、今後の生活相談や地域参加につなげる。
- ・地域日本語教室の日本語学習支援者や大学生がサポーターとして参加し外国につながる子どもの日本語学習支援の場を知る機会とする。

⇒なか国際交流ラウンジとよこはま日本語学習支援センターが協働で本教室を事業として実施することにより、教室に参加した外国につながる子どもと保護者が、教室後も継続的にラウンジや地域とつながれるよう、地域での切れ目のない支援体制の構築を目指す。



【取組7-2】なつやすみこどもにほんごきょうしつ

運営受託：(公財)横浜市国際交流協会



【実施した事業プログラム内容】

1日目： 学校で使う言葉、数字、 ひらがな「あ行」、挨拶、 自己紹介	2日目： ひらがな「か、さ」行 50音の歌、上下左右・前後、 けんだま・こま体験、自由学習	3日目： カタカナ・名前、位置を表す言葉、 色、すき/きらい、うちわ作り、 自由学習
---------------------------------------------	--------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

小学校に通い始めた際に学校生活を送りやすいように、ひらがなの読み書きやカタカナでの名前の書き方、数字、学校でよくある指示の言葉などを取り入れた。低学年や、まだ日本語になじみのない子ども達でも無理なく参加できるよう母語サポートや、体を動かす活動も取り入れつつ、楽しみながら日本語に親しめる内容とした。

そのほか、日本の文化体験としてけん玉やうちわ作りを行い、「ハサミ」「切る」や、色の名前などの日本語を使って、サポーターと会話をしながら進めた。参加者の学年が1年生から6年生、また来日時期が、来日直後～1年程経過している子どもと幅広かったため、自由に学習する時間も取り入れ、教室のフォローアップを行った。

【参加者の声】

・とても楽しかった。
・たくさん学んでゲームもした、
このクラスがとても好き。(参加者)

・子ども達の実践的な能力向上に役立った。
・先生とスタッフが親切で、たのしいゲームの中、
日本語を覚えるのがいいです。(保護者)

【成果】

- 子ども達が、生活や学校で使う基礎的な日本語を学べる場を提供できた他、子ども同士や、大学・地域日本語教室から参加したサポーターとの交流の場ともなった。プログラムは日本語レベルを問わず楽しく参加できるよう、体を動かす、歌を歌う、クイズなどの活動を多く取り入れ全体で盛り上がる場面も多く、子ども・保護者ともに満足度は高い結果となった。
- 教室開催期間中、なか国際交流ラウンジの積極的な案内や対応が、保護者の生活相談にもつながり、教室実施後も保護者が地域の日本語教室に参加したり、ラウンジのイベントへ親子で参加したりと、参加者がラウンジや地域と継続的に関わるきっかけを提供できた。また、教室・ラウンジ自体が夏休み中に家で留守番をして過ごしている子どもの居場所になったことや、子ども・保護者双方へラウンジスタッフが母語で連絡・サポートできる環境があったことは安心感につながったと考えられる。

【課題・今後の展望】

- 地域への展開を考えると、支援者と子どもが数名ずつのグループ形式で実施するなど、開催方法やプログラム内容については検討していきたい。
- 本教室では、これまでのなか国際交流ラウンジの中学生学習支援教室の取り組み等で育まれてきた「安心できる居場所」としての機能を、参加した子ども・保護者に感じてもらうことができたことが、今後の継続的なラウンジ利用や地域参加への一助となった。子ども教室の開催にあたっては、教室終了後も生活の安心や地域参加につながるよう、今回のように子どもと保護者が生活の中で継続的に関わることのできる場との協働、また安心できる居場所としての機能を持つ場との協働が重要だと考える。